

事業名	乳用牛改良推進事業費		
細事業名	乳用牛群検定推進事業費	財務コード	058202
担当部課室	農政 部 畜産 課 生産 担当 (内線)	5261	

事業の概要

実施期間	始期 S57 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助(山梨県乳用牛群検定組合)、県(委託)		
事業の目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして	結果、何に結びつけるのか
	乳用牛を飼養する農家(酪農家)	牛群検定に参加し、効率的かつ適正に乳用牛群の改良が進んでいる	県内乳用牛の能力向上及び酪農経営の収益向上
事業の内容 主にH26年度	【補助】 乳用牛の質的向上と効率的な飼養による経営改善を図ることを目的に、酪農家が乳用牛の能力検定を行うための経費に助成 補助先: 山梨県乳用牛群検定組合 事業内容 ・乳用牛群検定: 農家繋養雌牛群の総合的な能力検定の実施を推進する。 ・乳用種雄牛後代検定: 牛群検定のデータを基に種雄牛の評価成績を出し、より能力の優れた種雄牛を選抜する。 補助率 ・牛群検定: 42.2/100 ・後代検定: 10/10 注) 後代検定とは、種雄牛の選抜に際して用いられる検定で、子の成績から親(種雄牛)を評価する方法 【委託】 牛群検定により得られた検定情報の分析とそれらに基づく酪農家指導 委託先: 山梨県酪農業協同組合 事業内容: 検定情報の分析及び農家指導		
	根拠法令等	酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律、家畜改良増殖法、山梨県補助金等交付規則、乳用牛群検定普及推進事業費補助金交付要綱	

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	25年度	26年度		27年度	28年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	検定農家戸数	15戸	17戸	15戸	13戸	13戸	活動指標 目標設定の考え方 前年度実績値を参考に設定 データの出典等 山梨県乳用牛群検定組合事業報告
	活動指標達成率(実績値/目標値)		88.2 %				
成果指標	乳用牛1頭1日あたり平均搾乳量	28.0kg/頭	28.0kg/頭	28.8kg/頭	28.8kg/頭	28.8kg/頭	成果指標 目標設定の考え方 前年度実績 データの出典等 牛群検定成績表
	成果指標達成率(実績値/目標値)		102.9 %				
決算額又は予算額(千円)	1,200	1,181		1,210	1,186	成果指標によらない成果	
うち一財額	0	0		0	0		
所要時間(直接分)	84 時間	84 時間		84 時間	81 時間		
所要時間(間接分)	38 時間	38 時間		38 時間	36 時間		
所要時間計	122 時間	122 時間		122 時間	117 時間		
人件費1st単位:千円(@2,048円×所要時間)	250	250		250	240		

これまでの事業の見直し・改善状況

平成18年度に「乳用牛群検定普及定着化事業費補助金」と「乳用種雄牛後代検定推進事業費補助金」を統合し、「乳用牛群検定普及推進事業費補助金」とした。さらに、平成20年度に「乳用牛検定普及推進事業費補助金」と「乳用牛群検定普及定着化事業(委託費)」を統合し、「乳用牛群検定推進事業費」とした。

活動量と成果の判断(平成26年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H26年度活動指標の達成率		
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること
H26年度成果指標の達成率		平成26年度の乳牛1頭あたりの乳量は目標を達成している。また、検定対象となる牛の月齢構成等により年によって多少の増減はあるものの、平成18年(27.6kg/頭)と比較して増加傾向にあり、牛群検定参加農家の牛群の能力向上が図られて農家の経営改善に寄与しているため、意図した成果を上げている。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成28年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	農家指導や打合せ会議を他の業務と併せて行うなどの効率化を図り、補助金交付事務の時間を削減して所要時間を縮減する。	k

・「以外の判断項目」の欄
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: 7QeSの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成28年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	平成28年度においては、検定結果(牛群検定・後代検定)等をもとに行う農家巡回指導にかかる時間の短縮や事務打合せ会議の回数を減少するなどの効率化を図り、当該事業に係る時間を削減して所要時間を縮減する。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること